University of Tsukuba Library

Annual Report

2022

筑波大学附属図書館 年報2022年度

目 次

1．館長挨拶 …… 1

2．トレンド …… 2

ポストコロナ時代のバーチャル図書館コンテンツ

3．フォーカス（2022年度の特徴的な活動・事業） …… 4

1）新型コロナウイルス感染症対策から利用者サービスの再開へ

2）ライティング支援連続セミナーの再開

3）LA企画「筑波大生なんでも相談室」をオンラインで開催

4）令和 4年度筑波大学附属図書館特別展「孔子をまつる－歴聖大儒像の世界－」を開催

5）田村直翁筆「架鷹図」の修復

6）国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システムへの参加

4．資料紹介 …… 10

Historisch-kritische Ausgabe / Friedrich Wilhelm Joseph Schelling

女性のための投稿文芸雑誌『女子文壇』

深化する「宇野文庫」

5．職員の活動 …… 12

1）第11回大学図書館学生協働交流シンポジウム参加報告

2）漢籍担当職員講習会（初級）の受講

3）国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同
フレッシュパーソンセミナーへの参加

4）国立大学図書館協会東北地区協会職員研修への参加

5）第 6回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー参加報告

6）大阪大学職員研修への参加

7）研修における講師等

8）職員研修会

6．トピックス …… 16

1）サービス・活動

2）イベント・セミナー・授業

3）展示

4）見学・来訪者

5）オリエンテーション・講習会

6）研修・シンポジウム

7）会議

8）研究開発室

7．メディアにみる附属図書館 …… 20

1）学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

2）筑波大学附属図書館の刊行物

3）筑波大学出版会の刊行物

4）出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料

8．附属図書館ボランティアの活動 …… 22

9．組織図・歴代図書館長 …… 23

10．統計 …… 24

表紙写真

上：晩夏の中央図書館

下：修復完成記念特別公開「歴聖大儒像　儒者のまなざし」と
がまじゃんぱー

裏表紙写真

上：体芸図書館「ユーリカ!」壁面マスキングテープアート
医学図書館 2階から1階を見下ろす

中：中央図書館 コミュニケーションルーム

下：図情図書館展示「わたしの大切な書物 ～蔵書票の視点から
歴史に触れる～」
夜の大塚図書館

※本冊子に記載の所属・役職は全て2023年3月31日現在のものです。

1 館長挨拶

副学長（企画評価・広報担当）・附属図書館長
池田　潤

平素より、当館の運営に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。「筑波大学附属図書館年報 2022」を発行いたしましたのでご高覧ください。

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続きましたが、全国的な行動制限の緩和を受け、大学の活動にも様々な変化が見られました。附属図書館でもそうした状況に対応した取り組みを進めてきました。この一年間の活動を振り返り、ご紹介いたします。

2022 年度は、従来の図書館サービスが徐々に再開された年であったといえます。各館で使用できる座席の増加、学生によるセミナー室や多目的学習室の予約利用の再開、中央図書館のラウンジ・リフレッシュゾーンのグループ利用の再開など、段階的に館内の利用制限を緩和しました。

10 月からは、本学教員が講師を務め、大学での学びに必要なスキルをテーマ毎に取り上げるライティング支援連続セミナーを、十分な感染対策をとったうえで 3 年ぶりに対面で開催しました。「差がつく！レポート攻略術 2022」と題し、中央図書館ギャラリーゾーンを会場に開催した全 6 回のセミナーには、毎回多くの学生が参加しました。この他にも附属図書館研究開発室の成果報告会を対面形式で開催するなど、新型コロナウイルス感染症の拡大前に近い学習・研究の環境が戻りつつあります。

対面での様々な活動が再開される一方で、オンラインによるサービスの提供も続けています。新入生を対象とするファーストイヤーセミナーをはじめ、当館が実施するデータベース講習会は基本的にオンラインで開催し、大学院生のラーニング・アドバイザーが実施する LA セミナーも同時双方向の座談会形式で開催しました。大学図書館職員の研修会である「大学図書館等職員長期研修」も昨年度に引き続いてオンラインで開催し、全国から 30 名の受講者を迎えることができました。今後も学習や研究に必要なオンラインサービスについては、継続して対応していきたいと考えています。

利用制限の緩和により、地域・社会貢献の一環としての所蔵資料の展示や、生涯学習の機会の提供も行えるようになりました。5 月には狩野山雪筆「歴聖大儒像」の修復完成を記念した特別公開「歴聖大儒像　儒者のまなざし」を、11 月には附属図書館特別展「孔子をまつる―歴聖大儒像の世界―」を開催しました。5 月の特別公開の時点では来場を学内の方のみとしていましたが、11 月の特別展は事前予約制とすることで、学外の方にも当館が所蔵する歴聖大儒像 6 幅や、東京国立博物館からお借りした貴重な資料をご観覧いただくことができました。

9 月には附属図書館ボランティアの活動を再開しました。残念ながらボランティアカウンターでの対面サービスは休止が続いていますが、館内の書架整理や図書修理で活躍していただいています。次年度の全面的な活動再開を目指し、2023 年 2 月には 3 年ぶりに新規ボランティアの募集も行いました。

さらに、感染症の拡大による利用制限の開始以来、多くのお問い合わせをいただいていた学外の方のご利用について、2023 年 2 月から従来の来館利用および一般の方への学外者貸出利用証の発行・更新の申込受付を再開しました。

今年度の新たな取り組みとして、国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システムへの参加が挙げられます。これは大学図書館等で視覚障害者等のために電子化された資料のメタデータ（書誌情報）を検索可能にし、図書館間での資料の共有を促進することを目的としたものです。2022 年 10 月から本運用が始まりましたが、当館では 7 月の試験運用時から同システムに参加し、対応を進めてきました。当館が作成したデータは、関連事業である国立国会図書館の「視覚障害者等用データ送信サービス」を通じて、視覚障害その他の理由で通常の活字の印刷物の読書が困難な方にご利用いただいています。

附属図書館では、利用者に提供する様々なサービスの充実を目指し、一層の努力を重ねてまいります。今後とも附属図書館活動へのご理解とご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

（2023 年 3 月 31 日）

2 トレンド

ポストコロナ時代のバーチャル図書館コンテンツ

1. 新型コロナ禍と バーチャル図書館コンテンツ

2020 年初頭、新型コロナウイルスの急速な流行に伴い、全国の図書館で臨時休館や入館制限が発生したことによって、様々な代替サービスが試行されました。特に、VR 技術を用いた「バーチャル図書館」のコンテンツが複数の図書館から公開され、あたかも館内を歩き回っているかのように楽しんだり、図書館見学を疑似体験したりできる仕組みとして、注目を集めました。代表的なものとして、国立国会図書館による「夢の図書館―東京上野・国際子ども図書館をおうちで見学[1]」や、東京学芸大学附属図書館による「学芸大 3D 書架[2]」が挙げられます。筑波大学附属図書館も、2021 年 3 月に中央図書館の 360°VR 画像[3]を公開し、その後も体芸図書館、大塚図書館と撮影対象館を拡大しています。これらの試みは、新型コロナ禍という未曽有の社会事象の中でも、図書館がサービスを止めない姿勢を社会に発信することができ、緊急的施策として一定の価値を示したことは間違いありません。

さて、2022 年後半ごろから、多くの大学で入構や施設利用の制限が段階的に解除されていき、筑波大学でも 2023 年 4 月からほぼ全面的に対面授業が再開する形となりました。キャンパスに活気が戻り、図書館にも多くの学生が訪れるようになるのは喜ばしいことですが、一方でバーチャル図書館の意義や役目を再考することも必要になります。360 度全方向を撮影できる全天球カメラを用い、移動しながら多数の画像を記録しつつ、その画像をマップや仮想空間上に配置・編集することは、大きなコストを要するため、持続可能性が必ず課題となるためです。社会情勢の回復に伴い、バーチャル図書館は使命を終えてしまうのでしょうか。

2. バーチャル図書館の潜在的価値と 将来展望

図書館以外に目を向けてみると、VR 技術が普及し定着した分野はいくつかあります。例えば、VR 内見が可能となっている不動産情報サイトもありますし、工場見学の VR 映像を公開する製造業も複数登場しています。デジタルアーカイブの領域では、文化財や歴史的建造物を VR で再現する試みは兼ねてより行われています。職業訓練や技能研修を目的とした VR コンテンツも多数存在します。

これらの事例を参考に考えると、社会情勢の回復後においても、VR コンテンツは有効な活用可能性があることが分かります。本稿では、バーチャル図書館の今後の発展として予測される方向性を、以下にいくつか提示します。

- 現在、多くの事例は館内施設の撮影に留まり、書架間の精細な撮影まで実現されている事例は数少ないのが実情です。書架の資料が判別できるレベルの画像が提供できれば、情報探索の支援や資料発見の促進に資することができます。
  この点は、車いすの利用者や遠方在住者など、多様な利用者にブラウジングの機会を保障することにつながり、来館時のアクセシビリティ向上へ効果を発揮する可能性もあります。
- また、現在は開架の空間を撮影した画像の公開が中心ですが、むしろ閉架書庫や貴重書室など一般利用者が立ち入れない領域を積極的に撮影することで、閉架に対する仮想的なブラウジングの機会も実現されます。
- 多くの館が VR コンテンツを公開するようになれば、職員が他の図書館をオンラインで見学しやすくなり、先進事例の共有や相互の研鑽を円滑化できるといった業務上のメリットも生じることが予想されます。
- デジタル資料への動線を書架画像上にマッピングしたり、オンラインレファレンスへ接続できるようにしたり、館内で行われたイベントの映像を VR 空間内で再生可能とするなど、図書館空間と電子図書館を行き来できる“ハイブリッドライブラリー”の接合点として拡張することが期待されます。

以上のように、バーチャル図書館はポストコロナ時代においても、図書館が元来もつ使命や業務向上に貢献できる可能性を秘めています。しかし、依然として技術的ハードルや実務的課題は多く、図書館の新たな基盤サービスとして定着するかどうかは不透明です。現実世界と仮想世界が融合した未来の図書館像を見据えて、さらなる本質的な議論が望まれます。

（図書館情報メディア系助教　小野　永貴）

---

[1] "夢の図書館―東京上野・国際子ども図書館をおうちで見学　国際子ども図書館 VR（3D ビュー＋VR 映像）公開のお知らせ". https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2020/200623_01.html, (2023-04-25 参照).

[2] "学芸大デジタル書架ギャラリー". https://lib.u-gakugei.ac.jp/mol/shoka/daigaku, (2023-04-25 参照).

[3] "筑波大学附属図書館 360° VR 画像". https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/accessibility/VR/map.html, (2023-04-25 参照).

筑波大学附属図書館 360° VR 画像

（中央図書館 2 階の例）

ウェブブラウザ上で、マップ上に配置された丸囲いの数字を選択すると、360°VR 画像が開く仕組みです。
様々なタイプの閲覧席や館内施設、資料の配架場所などを紹介しています。

画像が歪んでいるように見えるのは、360° VR 画像を 2 次元で見ているためです。
これが実際の画面ではどう見えるのか、是非実際に使って確かめてみてください。

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/accessibility/VR/map.html

3 フォーカス（2022 年度の特徴的な活動・事業）

1. 新型コロナウイルス感染症対策から利用者サービスの再開へ
～見えてきた新たなニーズ～

1. 再開状況

新型コロナウイルス感染症対策のために利用制限が続いていましたが、大学の活動方針などを考慮して段階的に施設の利用やサービスを再開しました。

2022 年

5 月 16 日	新型コロナウイルス感染症に関する今後の考え方について【大学の方針】
6 月 13 日	セミナー室・多目的学習室の学生の予約利用再開 ※利用人数と利用時間数を制限
6 月 16 日	令和 4 年度授業の実施指針について【大学の方針】
7 月 6 日	閲覧席の利用制限を緩和
7 月 19 日	全学計算機端末の利用制限を緩和
10 月	ラーニング・スクエア等でのグループ学習は、机・椅子を移動せず、少人数での会話は可
10 月 3 日	ラウンジ・リフレッシュゾーン等の利用再開 ※食事は当面不可
10 月 27 日	ライティング連続支援セミナーを 3 年ぶりに対面にて再開
11 月	大学として依頼を受けた図書館見学を再開

2023 年

2 月 21 日	学外の方の来館利用再開、一般の方への学外者貸出利用証の発行・更新の申込み受付再開

2. 施設の利用状況

発話の禁止など、グループ学習の機会が著しく制限されましたが、段階的に利用を再開し、少しずつ利用件数も戻ってきました。

＜研究個室利用件数＞

	中央図書館		体芸図書館		医学図書館		3館合計
	学生等	教職員	学生等	教職員	学生等	教職員	
2019年度	11,563	691	392	45	826	40	13,557
2020年度	5,338	96	308	0	542	186	6,470
2021年度	9,160	92	314	54	669	153	10,442
2022年度	9,977	343	303	37	1,064	259	11,983

※2020 年 9 月 14 日中央・医学、10 月 1 日体芸の利用再開

＜セミナー室利用件数＞

	中央図書館		体芸図書館		医学図書館		図情図書館		大塚図書館		5館合計
	学生等	教職員	学生等	教職員	学生等	教職員	学生等	教職員	学生等	教職員	
2019年度	3,887	349	553	16	1,342	31	212	12	127	29	6,558
2020年度	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	20
2021年度	0	40	0	0	0	0	0	0	0	1	41
2022年度	1,217	206	41	2	90	2	24	0	48	7	1,637

※2020 年 11 月 2 日教員、2022 年 6 月 13 日学生の予約利用再開

3. 新たなニーズに向けたサービス

新型コロナウイルス感染症は、本来図書館として行うべき新たなニーズへの“気づき”をもたらしました。以下に挙げた、コロナ対策として新規に実施・拡充を行った、来館せずに利用できるサービスのうち、今後は、必要なものを継続しつつ、「場」としての大学図書館の再構築を行い、学習・研究により役立つサービスや環境を提供していきます。

- **電子リソースの拡充**
- **複写物郵送サービス(新)**

臨時閉館中は、複写料金・送料とも大学の負担で、開館再開後の 2020 年 7 月 2 日からは利用者の負担*で、図書館から自宅まで複写物（論文）の郵送を行っています。

＊クレジットカードによるオンライン決済や現金書留での支払

	2020年度	2021年度	2022年度	（件）
校費	337 (158)	220	160	
私費	1,181 (883)	393	537	

※(　)内は臨時閉館期間中（内数）

- **貸出郵送サービス(新)**

臨時閉館中は、貸出・返却とも大学の負担で、開館再開後の 2020 年 7 月 2 日からは利用者の負担で、図書館から自宅まで学内所蔵図書の郵送を行っています。

	2020年度	2021年度	2022年度	（件）
学生	672 (636)	93	32	
教員	217 (217)	8	0	

※(　)内は臨時閉館期間中（内数）

- **電子メールや Web フォームからの参考質問**
- **学生サポートデスクのオンライン相談(新)**
- **オンライン講習会の開催、講義動画のアーカイブ化(新)**
- **館内 360°VR 画像の公開(新)**

※(新)は、コロナ対策として新規に実施したサービス

※学生サポートデスクのオンライン相談については 6 ページ、館内 360°VR 画像については 3 ページを参照

セミナー室

（アカデミックサポート課長　松家　久美）

2. ライティング支援連続セミナーの再開

1. これまでの開催状況

ライティング支援連続セミナーは、附属図書館研究開発室の教員と学習支援推進 WG が企画・検討し、2012 年度から始まりました。「知識と言葉をめぐる冒険」をテーマに、「読むこと」「考えること」「伝えること」などの大学での学びに必要なスキルを学習できるセミナーとして大学でのレポートの作法、図表の読み取り方、正しい引用等について、1 回 60 分、全 8 回のオムニバス方式で行いました。当初は学群 1、2 年生の受講を想定していましたが、3、4 年生や大学院生の参加も多くみられました。

2014 年度からは大学院生向けに論文投稿の基礎や研究倫理等についてのセミナーが加わり、2017 年度からは「差がつく！レポート攻略術」のテーマで、毎年多くの参加者から好評をいただいてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら、2020・2021 年度は開催を見合わせました。

2. 3 年ぶりの開催のために

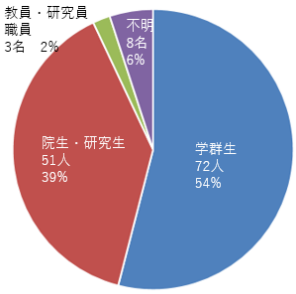
2022 年度当初は新型コロナウイルス感染症の影響で図書館の利用制限も続いている状況でしたが、5 月に大学から感染防止対策を十分講じた上で、ウィズコロナ時代における大学の平常化を目指す方針であるとのお知らせがありました。これを受けて、学習支援推進 WG では、研究開発室の先生方とライティング支援連続セミナーの再開について検討を始め、コロナ前（2019 年度）と同様に 1 回 60 分のオムニバス方式で秋学期に対面開催することとし、広報等を開始しました。

また、コロナ禍により館内での会話が制限され、セミナー等のイベントも開催されない状況が続いていたことから、会場近くの閲覧席にセミナー開催時間を掲示して音の発生についての理解を求めました。

セミナーのポスター

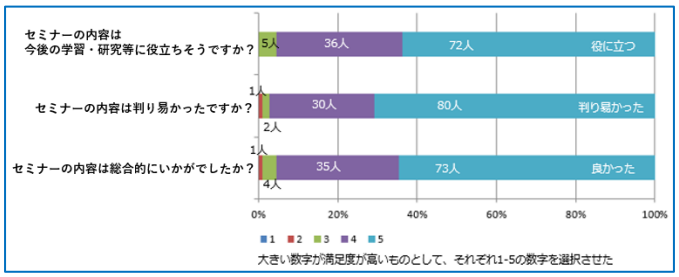
3. 2022 年度の開催状況

ポスターの通り、全 6 回（第 2 回は大学院生向け）のセミナーを開催し、参加者は延べ 132 名でした。2019 年度（全 7 回 101 名参加）よりも参加者が増えましたが、学群生対象の回にも大学院生・研究生の参加が多い傾向は変わらないようです。



参加者内訳

アンケートによれば、参加の動機はレポート・論文作成のスキルを高めたいというものが多く、受講後の感想として「論文を書くということについて、改めて基本を整理する機会になったのでよかった」、「一方的でなく、自分も発信できる形式のセミナーは新鮮で良かった」などの声が多く寄せられたことから、満足していただけたのではと考えています。



アンケート調査結果

セミナーの様子

4. 今後に向けて

アンケートでは、対面でのセミナーを歓迎する意見がある一方、授業時間に被る等の理由でオンライン開催あるいは対面・オンライン同時配信を希望するものも多数ありました。時間や場所等の制約がない、繰り返し視聴できる等のオンラインセミナーの利点を活かせる開催方式についても検討を進めていきたいと思います。

（アカデミックサポート課主幹(学習支援推進 WG)　守谷　美佐子）

3 フォーカス（2022 年度の特徴的な活動・事業）

3. LA 企画「筑波大生なんでも相談室」をオンラインで開催

1. 概要

2022 年 10 月 12 日（水）、中央図書館の学生サポートデスクで活動するラーニング・アドバイザー（LA）が、LA 企画「筑波大生なんでも相談室」をオンラインで開催しました。

2020 年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で、授業はオンラインで行われ、サークル活動は制限されるなど、学生同士が交流する機会が減ってしまいました。そんな状況の筑波大生が抱える悩み事に、現役大学院生である LA が同じ筑波大生として、また経験豊富な先輩として、自身の経験を踏まえながらアドバイスするという企画です。様々な人が気軽に参加でき、匿名で遠慮なく相談もできるように、オンラインで開催しました。相談内容は事前に募集をしたほか、開催中もリアルタイムで受け付けました。

配信会場の LA の様子

2. 実施の内容

当日は、修士 1 年から博士 3 年までの、専攻も様々な 7 名の LA が回答者として集まり、図書館内の会議室から配信しました。また、1 名の LA が別室で配信をモニターし、音声や画像のチェックを行いました。

参加者からは、進路や大学生活に関すること、レポート・論文の書き方、奨学金に関してなど、様々な悩み事が寄せられ、それらに対し、LA がそれぞれの考えを座談会形式で語り合いました。時にはチャットで参加者と対話することもあり、リアルタイム開催の利点を活かすことができたと思います。

多種多様なバックグラウンドをもつ LA のアドバイスは、質問をした筑波大生だけでなく、回答者として参加した他の LA にとっても参考となるもので、意義のある会になりました。

（学習支援係長　後宮　優子）

4. 令和 4 年度筑波大学附属図書館特別展「孔子をまつる―歴聖大儒像の世界―」を開催

1. 特別展概要

2022 年度特別展は「孔子をまつる―歴聖大儒像の世界―」と題して、11 月 1 日（火）から 11 月 18 日（金）まで、創基 151 年筑波大学開学 50 周年記念冠事業として中央図書館貴重書展示室で開催しました。

今年度の特別展は附属図書館と芸術系との共催で、水野裕史助教の企画・立案のもと、附属図書館研究開発室プロジェクトの一つとして室員である山澤学准教授、谷口孝介教授、附属図書館職員 9 名のワーキンググループが実施にあたる体制で行いました。

本特別展は、本学が所蔵する「歴聖大儒像」6 幅をはじめ、東京国立博物館が所蔵する孔子祭典を飾った文物や関連資料を展示しました。孔子を祀る祭典「釈奠（せきてん）」が行われてきた意義、釈奠で使用された「歴聖大儒像」の制作事情、江戸時代を通じて催されてきた「釈奠」が明治期一時廃絶されたものの東京高等師範学校校長の嘉納治五郎により再興された経緯などを浮き上がらせるものでした。

本学で所蔵する「歴聖大儒像」は積年の汚れや折れが生じ、資料にとって過酷な状況でしたが、財団からの助成金を得て 3 年の歳月をかけて解体修理を実施し、2021 年度に修復を完成させることができました。修復後、本学に戻ったタイミングで修復完成記念特別公開「歴聖大儒像　儒者のまなざし」を 5 月 16 日（月）から 5 月 27 日（金）まで行いました。今回の特別展では、特別公開時に好評だった修復工程写真パネルを第 2 展示室に設置し、あらためて紹介しました。

2. 特別展構成

展示は 4 部構成でした。第 1 部では狩野山雪筆「歴聖大儒像」を展示しました。この「歴聖大儒像」は儒学者の林羅山の求めに応じ、寛永 9（1632）年、狩野山雪により 21 幅制作されました。最初上野忍岡の孔子廟（先聖殿・聖堂）において、宋儒 6 幅が釈奠で使用されました。その 6 幅が湯島聖堂から高等師範学校、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学を経て、筑波大学へと受け継がれました。他の「歴聖大儒像」は本学と同じく湯島聖堂を起源とする東京国立博物館へと所蔵が分かれました。本展示では「歴聖大儒像」6 幅のほか、東京国立博物館蔵の孔子像および四配の 5 幅を借り受け、釈奠の再現を試みました。

3 フォーカス（2022 年度の特徴的な活動・事業）

第 2 部「釈奠器」では、釈奠に使われた祭器を展示しました。本展示では東京国立博物館に所蔵される「雲龍蒔絵尊案」と「海藻蒔絵俎」の 2 点を展示しています。この 2 点の釈奠器は高等師範学校の所蔵品であり、嘉納治五郎によって帝室博物館に寄贈されたものです。元禄 4（1691）年当時の湯島聖堂を描いた『聖堂之画図』では当時掛けられたであろう先賢先儒の図像も確認できます。

第 3 部「歴聖大儒像の道」では「歴聖大儒像」の図様の成立とそこに込められた意味の解釈を試みました。狩野山雪が「歴聖大儒像」を描出するにあたり参考にしたと思われる『三才図会』『聖賢像賛』や、林羅山が主張した道統論につながる『宋史紀事本末論正』も展示しました。

第 4 部「歴聖大儒像の評価」では『鵞峰先生林学士文集』『羅山林先生文集』『本朝画史』などを展示し、林羅山や松花堂昭乗などの「歴聖大儒像」への評価などを知ることができます。「歴聖大儒像」は唐人物画の特色を知るための好個の資料であり、近世儒学の発展と美術の関わりを示す貴重な資料であることがわかります。

3. 図録

特別展をより理解していただくために、展示資料の解説を中心とした図録を作成しています。今年度の図録は水野裕史助教を中心に、山澤学准教授と谷口孝介教授、大学院生の東瑞穂氏、同じく吉沼美咲氏、情報企画課の大久保明美専門職員が執筆しました。また、大学院生の浜野那緒氏が図録をデザインし、編集および校正は特別展ワーキンググループが行いました。多様なテーマで開催される特別展の図録は、会期終了後にも多くの方々に資料として活用されています。

図録ではコラムや特別展会場にパネルとして掲げた関連年表も参照できます。

4. 講演会・シンポジウム

11 月 2 日（水）に水野裕史助教による特別講演会「狩野山雪『歴聖大儒像』の伝来と魅力」を開催しました。その後、展示会場に場所を移し、講演者によってギャラリートークが行われました。筑波大学と東京国立博物館とに分蔵された歴聖大儒像が一堂に会する数少ない機会であることが語られ、参加者からも感嘆の声が漏れました。

11 月 5 日（土）にはシンポジウム「徹底解剖！狩野山雪『歴聖大儒像』」をオンライン形式で開催しました。水野裕史氏が司会を務め、8 名の登壇者がそれぞれ専門とする分野から歴聖大儒像や釈奠にまつわる講演や総合討議を行いました。シンポジウムの詳細については以下のページをご覧ください。

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2022/symposium.html

特別展開催期間中には、事前予約制ながらもコロナ禍以降 3 年ぶりに学外者の入館も可能となり、学内外から延べ約 1,500 名が訪れ貴重な資料を観覧しました。

5. 特別展 Web ページ

展示内容に合わせた Web ページを作成し、電子版図録や展示資料の紹介するほか、SNS を活用し様々な情報を発信しています。2022 年度筑波大学附属図書館特別展については、以下のサイトをご覧ください。

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2022/

（情報企画課主幹（特別展 WG 主査）　真中　孝行）

展示の様子

特別展ポスター

5. 田村直翁筆「架鷹図」の修復

1.「架鷹図」について

「架鷹図」は、江戸時代初期に田村直翁によって架にとまる 12 羽の鷹の姿が描かれたもので、金箔台紙に押貼りされた屏風装になっています。落款を有し田村直翁筆と考えられている作品は、本学所蔵分を含め数点しか確認されておらず、その中でも落款印とともに自筆署名のある本作品は貴重なものであると考えられ、江戸時代初期の架鷹図として重要な資料です。田村直翁に関する文献は少なく、生没年、画歴等も謎が多いのですが、『古画備考』によると、鷹をはじめとする花鳥画を得意とした、曽我直庵の弟子とされています。

2. 修復について

本屏風は平成 12 年、附属図書館にて狩野探幽・尚信の新出屏風とともに存在が確認されたもので、令和 2 年 10 月～令和 5 年 3 月にかけて保存修復作業を実施しました。修復前の作品は、各扇ともに料紙の劣化や糊の接着力低下に伴う剥離が激しく、また経年による汚れの付着に加え、水漏れによるシミも生じており、表装の破損も甚大でした。なお本作品は、東京文化財研究所保存科学センターに光学調査を依頼しており、専門的な色彩材料に関する調査、高精細デジタル撮影による制作痕や使用痕の調査分析は修理を行う際の参考となっています。ここでは、修復の工程について紹介します。

6 曲 1 双の屏風は、修理前に写真撮影を行い作品の状態を調査し、今後の修理方針を決めるところから始まります。本作品は屏風装になっていますが、鷹の描かれた本紙が押貼りされているため、解装後は 12 羽の鷹がそれぞれに独立した様子が感じられました。

解装の様子

まず、本紙表面に付着している汚れの乾式除去を行い、絵具層に剥落止めの処理を施し、その後水溶性の汚れを吸水紙に吸い取らせる湿式除去を行いました。汚れが除去されたことにより、本紙の状態が明確になり作業が進めやすくなります。本紙の修理は、本紙表面を保護する表打ちを施したうえで旧肌裏紙除去を行い、欠損箇所の補修、肌裏打、増裏打へと進みます。旧肌裏紙の除去は、本紙を傷めないようにピンセットで繊維をめくりながら慎重に行われ、多くの作業時間を要しました。また、欠損箇所の補修には、本紙料紙が竹紙であるため、竹と楮の混合紙を作製し補修紙としての機能を持たせたものを使用しました。

旧肌裏除去の様子

補修の様子

欠損箇所の補修が終わると、本紙への裏打ちが行われますが、裏打ち紙は本紙および欠損箇所と視覚的に違和感が生じないように染色加工したものが使用されました。本紙への 2 層の裏打ち後、補修材を補填した箇所に補彩を施しますが、あらたに描線を書き足すことはせずに、周辺部と調和するように地色補彩を行いました。

修復に際しては、作品の原装を損なわないように修理が可能な部材は修理して使用しますが、本作品については屏風下地以外にも、襲木や金物、裂地などの表装部材は劣化が激しく修理困難と判断しすべて新調しました。組子下地には 8 層の下貼りが施され、紙蝶番を取付け屏風下地が完成しました。その後、屏風下地に表装部材および修理を終えた本紙を貼り込み、屏風装に仕上げ、すべての修理工程は終了しました。なお、旧下貼紙に反古紙が使用されていたこと、修理における相剥ぎ、本紙上のオーバーペイントなど、今回の解体修理で過去の修理についても知見を得ることができました。

本紙の貼込みの様子

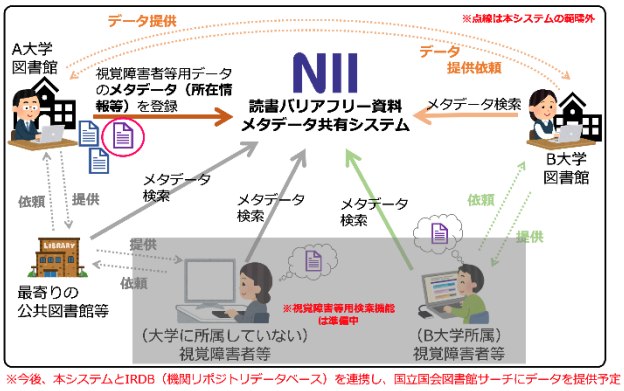
3. まとめ

附属図書館で所蔵している屏風 3 点のうち、狩野探幽および狩野尚信の作品はいずれも水墨画ですが、田村直翁の作品は数種類の絵具が使用されています。過去の修復では実施しなかった光学調査等も行い、科学的な分析結果も参考にして修復が完了しました。今後は貴重な学術資料として継承されることを願っています。なお、詳細な修復工程については、附属図書館 facebook で紹介しています。
https://www.facebook.com/tsukubauniv.lib

（古典資料担当専門職員　大久保　明美）

6. 国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システムへの参加

国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システムは、大学図書館等で視覚障害者等のために電子化された資料のメタデータを検索可能にし、図書館間での資料の共有を促進することを目的とし、2022 年 10 月 4 日から本運用が開始されました。



「国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システム概要図」
https://a11y.pub.nii.ac.jp/overview

このシステムに登録されたメタデータは、他機関に提供可能な資料のみとなっています。メタデータにデータ作製機関の情報が記載されており、図書館を通してデータ提供依頼をすることができます。今後、視覚障害者等が自分で検索して依頼することが可能なシステムとなる予定です。

当館では試験運用時から参加し、現在、当館が作製した 49 件のメタデータを登録しています。登録したデータは、国立国会図書館にテキストデータを提供しており、同館の視覚障害者等用データ送信サービスを通して、全国の視覚障害者等が利用できるようになっています。

（多様化支援担当係長　飯田　貴子）

4 資料紹介

Historisch-kritische Ausgabe / Friedrich Wilhelm Joseph Schelling ; im Auftrag der Schelling-Kommission der Bayerischen Akademie der Wissenschaften

シェリング再興

シェリング（フリードリヒ・ヴィルヘルム・ヨーゼフ・フォン・シェリング、1775-1854）は、ヘーゲルと同時代の哲学者であり、ヘーゲルと並び称された（そしてヘーゲルから嫉妬されていた）才能の持ち主であるにも関わらず、ヘーゲルの栄光の影に隠れ、これまでほとんど顧みられてこなかった思想家である。1854 年に死去した後、現在に至るまで、シェリングを真正面から取り上げて評価したのはほとんどハイデガー一人に過ぎない。

ハイデガーにとってシェリングは、「自由」を考える上で最高の貢献をした哲学者である。ハイデガーによれば、シェリングの「自由」とは、単に「精神の自己展開」としての自由を理論的に構造化したに留まるヘーゲルの「自由」概念とは全く異なる次元に位置するものである。シェリングは言うのだ、「自由とは、善へと向かう自由なのではない。自由とは同時に悪へと向かう自由でもあるのだ」、と。

言われてみれば確かにそうだろう、もしも世界に善と悪があるとするなら、そのうち善にしか向かえない自由は「半分の」自由でしかない。その段階ではまだ、自由は「善に縛られている」（「悪に縛られている」とも言える）不自由な自由なのだ。だが、自由を本当の自由にすること、すなわち善へも悪へも開かれた完全な自由にすることは、可能なのか？そしてそれは本当に人間にとって幸福なことなのか？

それがシェリングの問題だった。

だからシェリングを理解することはかなりモヤモヤすることなのだ。多かれ少なかれ私たちは社会的生物として「常識」も「良心」も、そして「罪悪感」なるものも持っているからである。「悪に向かう自由」などという恐ろしいことを考えると罪悪感がザワつくのである。

とは言っても、ようやくドイツでシェリングを再評価しようという動きは始まっている。

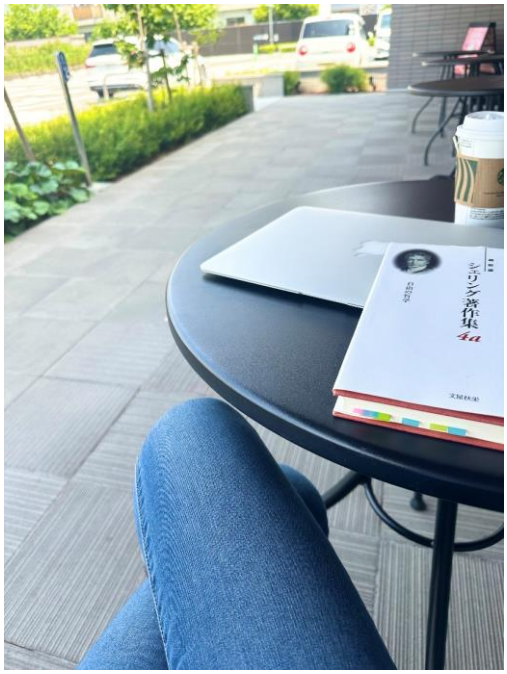
シェリングを読むことはその人が常識の奴隷であるかどうかを測る試金石である。そしてその人が本当に幸福になるための扉を開く魔法の鍵でもある。

シェリングの本たちがこの図書館に入って本当に嬉しい。

ドイツ語の原文で読んでもいい。最初は日本語の翻訳で読んでもいい。

いずれにしてもシェリングにまともに向き合うことは読む人の人生を変えるはずである。

（人文社会系准教授　五十嵐　沙千子）



4 資料紹介

女性のための投稿文芸雑誌『女子文壇』

このたび本学中央図書館に配架された復刻雑誌『女子文壇』（不二出版）は、明治期・日露戦争中の 1905 年に創刊され、大正期に至る 1912 年まで刊行された日本で最初の女性たちのための投稿文芸雑誌です。当時、男性のための投稿雑誌は複数存在しましたが、女性のための雑誌はまだありませんでした。編集は野口武次郎・河井酔茗で、雑誌は皇太子妃（後の貞明皇后）に上覧されています。選者・評者は男性文学者たちでしたが、女子高等教育が盛んになっていくなかで、女性たちが書き、交流する場を生み出した功績は甚だ大きかったといえます。

実際、女性たちの投稿には、書くことへの喜びが溢れています。短編小説、美文、新体詩、日記文、論文、和歌、お伽話、書簡文、俳句、短文と多種多様なジャンルが用意され、現在の学校教育の作文観とはまた異なるといえるでしょう。投稿は全国津々浦々からありましたが、ここでは茨城県の女性が筑波山を題材にした短文を紹介したいと思います。

> 「筑波山」　茨城県　齋藤もと
>
> 筑波山は一日に七度色が変わると申します、朝日の出る前には濃い桔梗色で真昼が青、而して日が西にかくれる頃は上の方が浅葱で下がだんだん薄くぼけて丁度裾模様にでも有りそうな色です、此のほかの色は知りませんが晴れた日には私(わたくし)必ずこの三色(みいろ)を見ない事はありません。
>
> 3 巻 16 号（1907 年）

当時、自然を観察する目を養った写生文全盛期で、この短文は選者から「真の写生」と褒められており、掲載号では 3 等を与えられていました。

この『女子文壇』は、新しい女と称された平塚雷鳥が主宰したフェミニスト雑誌『青踏』に先立つ雑誌でもあり、近代女性表現の萌芽を知る上でとても興味深い文献なのです。

（人文社会系准教授　馬場　美佳）

深化する「宇野文庫」

1. 宇野文庫とは

宇野文庫は、「宇野理論」として世界的に知られた経済学者である宇野弘蔵氏（1897～1977 年：写真）の旧蔵書寄贈を受け、1997 年に筑波大学附属図書館に設立されたコレクションです。

筑波大学で研究教育に従事した大島清（元副学長、名誉教授）、降旗節雄（名誉教授）の両氏は宇野の直弟子にあたり、本学が宇野理論の研究拠点の 1 つとなっていたことから、本文庫の設立に至りました。

宇野は東北大学、東京大学において優れた研究者を多数育成し、彼らがさらに宇野理論の発展に尽力するなかで日本発の理論が海外にも知られるに至り、研究が世界的に進展していきました。近年でも、University of Zurich の Elena Louisa Lange によって、宇野理論に関する 600 頁にわたる研究書（*Value Without Fetish*, 2021）が出版されています。

2. 宇野文庫の新たな展開

文庫には、宇野の手稿、未刊行の講演原稿、研究ノート、書込みのある図書などを含めて 1,400 点余が収蔵されています。それらには宇野理論形成過程における着想や思索の経緯などが随所に示されており、きわめて貴重かつ重要な資料群といえます。

文庫が設立されて四半世紀がたちましたが、この度、宇野の直弟子であり、本学で経済学史の授業を担当されたこともある櫻井毅氏（武蔵大学元学長、名誉教授）から資料寄贈の申し出があり、文庫創設時の「取扱方針」に則して、2022 年 10 月に宇野の旧蔵書および論文掲載誌 34 点を新たに収蔵することができました。

その結果、自筆の書き込みがある宇野『経済原論』など、これまで未収蔵であった貴重な資料が新たに追加され、文庫の厚みが増しました。

3. 宇野文庫の利用にあたって

文庫に収蔵された資料は中央図書館和装本別室に、また手稿等は貴重書庫に保管されており、自筆ノート等の一部は電子化されています。学外者の閲覧も随時受け付けています。

さらに、1996 年に開催した記念イベント「宇野文庫展」で配布したパンフレットと同じ内容を下記の web サイトに掲載していますので、そちらも是非ご覧ください。

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/unobunko/frontpage.html

（人文社会系教授　平沢　照雄）

5 職員の活動

1. 第 11 回大学図書館学生協働交流シンポジウム参加報告

1. 概要

2022 年 9 月 9 日に中国四国地区大学図書館協議会主催の「第 11 回大学図書館学生協働交流シンポジウム」に参加しました。今回のシンポジウムは「ウィズコロナ時代の学生協働～会える時も会えない時も～」をテーマに、学生協働を実施している全国の大学図書館の学生や教職員が交流を深める機会としてオンラインで開催されました。

シンポジウムでは、まずアイスブレイクとして参加者全員で図書館にまつわるクイズをした後、参加した 46 の大学のうち 9 大学が活動報告を行い、最後に少人数でフリートークをする時間が設けられました。教職員も学生も楽しく参加できるよう工夫がされており、充実した内容となっていました。

2. 印象に残ったこと

九州大学、高知県立大学、摂南大学、徳島大学、広島大学、文教大学、松山大学、山口県立大学の 8 大学による活動報告については、当館でも本学の大学院生であるラーニング・アドバイザーが中央図書館で学生に対する学習支援を行っているため、他大学の様々な学生協働の事例を知ることができ、大変参考になりました。特に九州大学の図書館 TA（Cuter）は学習相談をはじめ、Web 学習ガイドの公開、講習会、学際交流など、多様な取り組みが実施されており刺激になりました。また他大学の教職員とのフリートークでは、同じような悩みや課題を抱えていることが伺えたため、お互いの活動状況を共有できる機会があるとよいのではないかと思いました。

3. 参加を通して

大学図書館における学生協働はその形態、程度などが様々であるため、決められた枠やルールにとらわれない仕組み、活動を考える必要があると感じました。またシンポジウムの参加は、大学図書館職員が学生と協働することの意味、難しさについて改めて考えさせられるきっかけとなりました。

2022 年度以降も大学図書館学生協働交流シンポジウムが開催される予定であれば、次回は職員だけではなく、ラーニング・アドバイザーの方々も参加できるとよいのではないかと思いました。彼女/彼らにとっても、とても有意義な経験になると考えます。

（学習支援担当　齊藤　真以）

2. 漢籍担当職員講習会（初級）の受講

1. 概要

2022 年 10 月 3 日（月）～10 月 7 日（金）に京都大学人文科学研究所で開催された、「令和 4 年度漢籍担当職員講習会（初級）」を受講しました。本講習会は、大学図書館・公共図書館等において、漢籍（中国人によって書かれた漢文の書籍）の整理等の業務に従事する図書館職員に、漢籍の取り扱いに関する知識と技術の普及をする目的で開催されました。

初日は、漢籍の概要に関する講義と、漢籍目録カード作成に関する講義が行われました。2 日目は、目録作成に必要な参考書に関する講義、漢籍関連サイトの利用について、更に漢籍の取り扱いとデータ作成に関する事前指導があり、実際に漢籍目録カードの作成実習を行いました。前半の 2 日間は漢籍の基礎的な知識の習得を行い、後半の 3 日間は実際に資料を使って、漢籍データの入力実習を行いました。また、3 日目には和刻本に関する講義、4 日目には朝鮮本に関する講義もありました。

2. 講習会を受講して

本講習会は、実習が多く含まれているため対面講義形式で開催されました。受講者も 16 名と少人数で、後半の実習では講師の先生方が丁寧に指導してくださいました。前半は、漢籍の定義から実際の整理方法、目録作成に必要な工具書についてなどを学び、中国人によって書かれたものは漢籍、日本人によって国内で刻されたものは和刻本漢籍として分類されることなど、漢籍の定義を改めて認識することができました。3 日目からは実習が中心となりましたが、実習にあたっての事前指導が 2 時間ほどしかなく、実際に漢籍を手に取りデータ入力をするとなると、タイトルや撰者がわかっても、その他の書誌事項についてはいろいろな工具書を参考にしなければならず、漢籍目録の大変さを痛感しました。入力実習には、漢籍の書誌情報について「経・史・子・集」の四部分類に基づいて収集・登録した「全国漢籍データベース」を使用しました。なお、本学附属図書館の漢籍資料は、NACSIS-CAT への登録を基本としており、書誌レコードの作成には「和漢古書に関する取扱い及び解説」を基準にしているため、書誌情報の記述には違いを感じました。

5 日間の講習は、改めて漢籍の基礎知識から学ぶことができ大変有意義なものとなりました。また、特別にさせていただいた書庫見学も大満足でした。今後は、この講習会で得たものを担当業務に活かしていきたいと思います。

（古典資料担当専門職員　大久保　明美）

3. 国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナーへの参加

1. 概要

2022 年 11 月 11 日に東京大学総合図書館で開催された国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナープログラムに参加しました。本研修は、両地区に所属する大学図書館で、業務に就いてから 2 年以内の職員を対象に、大学図書館業務についての見識を広める目的で開催されました。筑波大学をはじめとした様々な国立大学で働かれている現役職員の方による全 5 回の講義が行われ、希望者には東京大学総合図書館の見学が実施されました。また、隔年で開催されるこのセミナーは、前回はオンラインでの開催であったため 4 年ぶりの対面開催となりました。

＜講義テーマ＞

1	「大学図書館の現状と課題」
2	「学芸大附属図書館における利用者サービスの取組み」
3	「図書の選書・受入・目録」
4	「雑誌、電子リソース契約業務と JUSTICE の取り組み」
5	「オープンアクセスと機関リポジトリ」

2. 研修に参加して

今回の研修では、大学図書館の主たる業務について、それぞれを深く知る職員の方から直接お話を聞くことができ、大学図書館全体への理解を深めるとても良い経験になりました。

特に、普段関わることの少ない、図書や雑誌、電子ジャーナルなどの電子資料も含む図書館資料全体の調達業務や、機関リポジトリの運営などオープンアクセスへの取り組みについて、仕事の流れだけでなく、実際に携わる職員が感じている課題についてのお話もあり、改めて大学図書館にある多様な業務を実感するとともに、今後図書館職員としてそれら課題にどう向き合っていくかを考える貴重な機会となりました。

また、筑波大学以外で働く図書館職員の方とも初めてお会いし、大学をまたいだ同期として交流を図ることができました。

（利用者支援担当　富田　有美）

4. 国立大学図書館協会東北地区協会職員研修への参加

1. 概要

2023 年 1 月 11 日に開催された、国立大学図書館協会東北地区協会 令和 4 年度職員研修「ストレスマネジメント：結果につなげるマインドフルネス～思考と感情の整理術～」に参加しました。本研修は、多様な役割が求められる図書館において、変化に対応して健やかなマインドを維持しながら業務に取り組むためのストレスマネジメントを身につけ、活用することを目的として開催されました。オンラインで行われ、各地区からおよそ 80 名の参加がありました。臨床心理士の講師が招かれ、実践を交えて思考と感情の整理術を学びました。

2. 内容

1. ストレスマネジメントとは
2. マインドフルネスの基礎理解
3. 自身の思考や感情について理解する
4. マインドフルネスの手法を習慣化する
5. 相手に対してマインドフルネスに接する

3. 参加を通して

マインドフルネスという言葉は、概して言うと「今、この瞬間の体験に意図的に意識を向け、 評価をせずに、とらわれのない状態で、ただ観ること」という意味だそうです。思考と感情の整理に役立ち、今取り組んでいることに集中できるといいます。

研修では、マインドフルネスの一つの手法として、「ボディスキャン」が紹介されました。これは、頭の一番上から爪先までのそれぞれの体の部位に順番に意識を向けていくという手法で、集中が途切れた時やストレスを感じた際、思考を整理し次の行動へと切り替える手段として有効だと感じました。

参加を通して、臨床心理学の知見を活かした実践的なストレスマネジメントの手法を学ぶことができました。

（デジタルライブラリ担当　西　彩花）

5 職員の活動

5. 第6回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー参加報告

1. 概要

2023 年 2 月 6 日（月）にオンライン開催されたセミナー「デジタル資料の保存管理の実際」に参加しました。以下の機関でデジタル資料保存の実務に携わる方々から、保存理論、各機関での実際の取り組み、今後の課題等の報告がありました。

- 国立国会図書館
- 早稲田大学演劇博物館
- 東京大学史料編纂所
- 東京大学文書館
- 東京大学学術資産アーカイブ化推進室

2. セミナーに参加して

デジタルライブラリ担当の業務として古典資料（貴重書）の電子化画像の管理・公開があり、現在新たなデジタルアーカイブサイトの構築へ向け準備しているところです。これまでは「データの公開・活用」に主に目が向いており、「保存」の視点からはあまり議論してきませんでしたので、具体的な取り組みについて伺うことができとても参考になりました。

デジタル資料保存の文脈における「マイグレーション」という言葉について知ることができました。デジタルデータは媒体が壊れれば消失するおそれがありますが、外観からは劣化に気づくことができません。また、古いフォーマットが新しい機器では再生できなくなることもあります。そのため定期的に媒体を移し替えたり、ファイルフォーマットの変換を行ったりする必要があり、この作業がマイグレーションと呼ばれます。当館でも作成から 30 年近く経過したメディアを保管しているため、重要な課題といえます。

マイグレーションに加えて、適切なバックアップを取ることもデータ消失を防ぐために欠かせません。さらに、資料作成・収集を続けていけばデータは増え続けるため、ストレージの容量を追加していかなければなりません（紙資料の書架狭隘化や書架増設と似ています）。したがって、デジタルアーカイブを運用していくためには恒常的な予算の確保が必要です。簡単なことではありませんが、長年かかって撮影し蓄積してきた貴重書データを今後も活用し続けるため、方針を検討していきたいと思います。

（デジタルライブラリ担当　田村　香代子）

6. 大阪大学職員研修への参加

1. 概要

2023 年 2 月 14 日にオンラインで行われた令和 4 年度大阪大学職員研修「オープンサイエンス時代の研究データ管理支援と求められる人材の育成」に参加しました。本研修では、大阪大学と九州大学それぞれの大学での研究データ管理支援の取り組み状況についての講演が行われました。

大阪大学では、研究データ管理（支援）人材育成のための教材を、対象分野・人材ごとに習得スキルを整理し、モデルの学外展開や人文社会系への展開を見据えて開発中です。

九州大学では、研究データ管理に関するリテラシー教材を既に YouTube で公開しているとのことです。また、研究データ管理（支援）人材育成のため、大学院のライブラリーサイエンス専攻でのカリキュラムやライブラリーサイエンス専攻に入学しなくても受講可能なトレーニングコースを開発中です。

2. 参加を通して

情報研究と実験研究とでは研究ライフサイクルが異なるため、それぞれに合わせた支援が必要であることや、世界的な動きとして多くの研究資金配分機関が DMP（データマネジメントプラン）の提出を必須としている現状、個人情報保護法改正に伴い、個人情報を含むデータの取り扱いにより一層注意する必要が出てきたことなど研究データ管理（支援）人材育成やポリシー策定が急務であることが改めて意識づけられました。

人材育成関連では、九州大学にて 60 時間程度で履修可能な研究データ管理（支援）人材育成のためのトレーニングコースを検討していることや、大阪大学が NII（国立情報学研究所）の「AI 等の活用を促進する研究データエコシステム構築事業」にて、人材育成チームのリーダー機関となっており、現在教材の作成をしていることなどが共有され、今後そういったトレーニングや教材での学習の必要性が高まっていると感じました。

今後筑波大学でも研究データポリシーを策定していくことになりますので、大変参考となる研修機会となりました。

（リポジトリ担当　大石　柾洋）

5 職員の活動

7. 研修における講師等

開　催　日	氏　名	催し物　【テーマ・資料・参考 URL】
2022.11.11	藤田祥子	国立大学図書館東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー 「オープンアクセスと機関リポジトリ」
2022.12.22	松家久美	令和 4 年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会 「筑波大学附属図書館における障害を持つ利用者への資料電子化サービスについて」
2023.2.13	藤田祥子	次期 JAIRO Cloud（WEKO3）操作説明会 「一括更新編」 【概要】https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2022#news_20230117

8. 職員研修会

日　付	場　所	講師・発表者	参加者数
「歴聖大儒像　儒者のまなざし」研修会			
2022.5.18	中央図書館　集会室 （オンラインとのハイブリッド開催）	池田和彦氏（株式会社修護代表取締役）	21 名
新任図書館職員研修会			
2022.6.24	中央図書館 新館 2 階会議室	加藤さつき（情報企画課長） 松家久美（アカデミックサポート課長） 石津朋之、岩村良子、齊藤真以、西彩花、吉川千春、 清水彩代、並木映李香	3 名
令和 4 年度研究開発室研究成果報告会			
2023.3.10	中央図書館　集会室	逸村裕、高久雅生（図書館情報メディア系）、 水野裕史（芸術系）	28 名

6 トピックス

1. サービス・活動

日　付	内　容
2022.6.1～8.31	電子ブック全文無料試し読みサービス
2022.6.13	学生によるセミナー室・多目的学習室の予約利用再開
2022.8.12	休業期間中貸出終了時間の繰り下げ本運用開始（体芸、図情）
2022.9.2	ボランティアの活動を一部再開
2022.9.20	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、歴史的音源サービス利用開始（体芸）
2022.10.1～12.31	電子ブック全文無料試し読みサービス第2弾
2022.10.3	ラウンジ・リフレッシュゾーン利用再開（中央）
2023.1.4	冬季における休業のため臨時休館
2023.1.14／1.15	大学入学者選抜のため臨時休館（中央、体芸、医学、図情）
2023.2.21	学外者の来館利用と一般学外者の利用証発行再開
2023.2.25／2.26	大学入学者選抜のため臨時休館（中央、医学）
2023.3.31～6.30	中央図書館セルフツアー開催

2. イベント・セミナー・授業

日　付	内　容	主　催	場　所
2022.11.14	Klis 学生交流イベント（おしゃべり会）	知識情報・図書館情報学類	図書館情報学図書館コミュニケーションスペース
2022.12.3	留学生と日本人学生の交流イベント（おしゃべり会）	知識情報・図書館情報学類	図書館情報学図書館コミュニケーションスペース
2023.2.10	「プロジェクトワーク日本語」発表会	担当教員　吉陽（グローバルコミュニケーション教育センター）	中央図書館 チャットフレームC側 ギャラリーゾーン

3. 展示

日　付	内　容	主　催
中央図書館　展示		
2022.4.5～5.5	図画団新歓展示	美術サークル図画団
2022.4.6～4.26	2022年度筑波大学写真部新入生歓迎展示	筑波大学写真部
2022.5.16～5.27	修復完成記念特別公開「歴聖大儒像　儒者のまなざし」	附属図書館
2022.6.21～7.12	LA との冒険～ラーニング・アドベンチャー2022～	附属図書館ラーニング・アドバイザー
2022.6.21～7.12	筑波大学写真部新人展	筑波大学写真部
2022.10.24～10.31	オープンアクセスおよびリポジトリに関するポスター展示（Open Access Week 2022）	附属図書館

2022.11.1～11.18	令和4年度筑波大学附属図書館特別展 「孔子をまつる：歴聖大儒像の世界」	附属図書館
2023.1.10～1.24	セクシャルマイノリティ写真展「OUT IN JAPAN ＠筑波大学」	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
2023.2.22～3.24	附属学校ポスター展	附属学校教育局
2023.3.6～3.17	国際女性デー関連資料展示	附属図書館
2023.3.22～3.29	附属図書館研究開発室成果報告	附属図書館
体育・芸術図書館　展示		
2022.4.5～5.5	図画団新歓展示	美術サークル図画団
2022.7.11～12.16	東京2020公式アートポスター	附属図書館
2023.3.28 ～2024.3.31	壁面マスキングテープアート	芸術専門学群学生、上浦佑太（芸術系）
2023.3.31 ～2024.3.31	「東京2016オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた招致活動」展	体育系
図書館情報学図書館　展示		
2022.3.29～6.17	錦絵展示「昭和の縁起巻き物」	附属図書館（図情図書館）／ 共催：図書館情報メディア系綿抜・時井研究室
2022.7.11～11.25	「わたしの大切な書物 ～蔵書票の視点から歴史に触れる～」	附属図書館（図情図書館）／ 共催：図書館情報メディア系綿抜・時井研究室
2023.2.16～5.19	「わたしの大切な書物 ～蔵書票の視点から歴史に触れる～　Part2」	附属図書館（図情図書館）／ 共催：図書館情報メディア系綿抜・時井研究室

4. 見学・来訪者

日　付	内　容
2022.07.12	埼玉県立越谷北高等学校　普通科・理数科 2 年　40 名
2022.09.21	福島県立磐城高等学校　普通科 2 年　40 名
2022.10.06	新潟県立高田高等学校　普通科 2 年　41 名
2022.10.19	岩手県立花巻北高等学校　普通科文系理系混合 2 年　10 名
2022.11.02	群馬県立桐生高等学校　理数科 1 年　42 名
2022.11.09	韓国　国立国際教育院、千葉韓国教育院関係者ほか　5 名
2022.11.15	富山県立砺波高等学校　普通科（文系理系混合）2 年　32 名
2022.11.30	ベトナム　教育訓練省一行　16 名
2022.12.06	長崎県立長崎北陽台高等学校　理数科 1 年　22 名
2022.12.22	トルクメニスタン大使館スタッフ、アザディ世界言語大学の学生　5 名
2023.02.15	日越大学 ODA 調査団　30 名

※全 30 件（1,002 名）から抜粋したもの。

5. オリエンテーション・講習会

内　容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション（学群生）	2 回	2,168 名
新入大学院生オリエンテーション（院生）	2 回	102 名
留学生オリエンテーション	4 回（3 回）	65 名
新任教員オリエンテーション	1 回	-
論文の探し方講習会	28 回	299 名
自由テーマオリエンテーション	1 回	11 名
科目関連指導	19 回（8 回）	2,554 名
（内訳）ファーストイヤー・セミナー	11 回（7 回）	2,193 名
知識情報特論 I「文献の検索から入手まで」	1 回	115 名
知識情報特論 I「RefWorks の使い方」	1 回	45 名
授業「テクスト解釈 I・II　貴重書の扱い」	1 回（1 回）	19 名
カウンセリング学位プログラム	1 回	31 名
スポーツウエルネス学位プログラム	1 回	70 名
経営学学位プログラム講習会	1 回	35 名
リハビリテーション科学学位プログラム	2 回	46 名
その他	13 回（3 回）	752 名

※新任教員オリエンテーションは資料アップロードをもって実施とし、参加者数は集計しない。
カッコ内は内数で、対面での実施回数。それ以外の講習会・オリエンテーションは全てオンライン開催。

日　付	内　容	講　師	参加者数
ライティング支援連続セミナー　差がつく！レポート攻略術			
2022.10.27	文章の目的と構成を考える	三波千穂美（図書館情報メディア系）	27 名
2022.11.10	ハゲタカ（Predatory）を避ける：投稿も利用も	逸村裕（図書館情報メディア系）	15 名
2022.11.17	論理的に書くために	田川拓海（人文社会系）	38 名
2022.11.24	「事実」と「意見」を区別する	野村港二（生命環境系）	19 名
2022.12.1	データ、絵、文字	野村港二（生命環境系）	11 名
2022.12.15	「うまく書く」ってどんなこと?	五十嵐沙千子（人文社会系）	22 名
LA（ラーニング・アドバイザー）企画（オンライン）			
2022.10.12	「筑波大生なんでも相談室」	江頭健斗、大村浩之、才鴈武也、笹川大河、髙田琉菜、矢川嵩、米子佳蓮（附属図書館ラーニング・アドバイザー）	7 名
その他の研究・学習支援企画			
2023.1.20	令和4年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）「メディア虎の穴」「学術情報の探し方」（筑波大学附属駒場中・高等学校）	後宮優子、齊藤真以（学習支援担当）	125 名

6 トピックス

6. 研修・シンポジウム

日　付	内　容
2022.7.4～7.15	令和4年度大学図書館職員長期研修（受講生30名）
2022.8.29～9.9	インターンシップ（筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 4名）

7. 会議

日　付	内　容
2022.6.2／2023.3.16	附属図書館研究開発室運営会議
2022.6.6／9.29／12.20／2023.2.22	附属図書館運営委員会
2022.6.24／9.13／2023.2.10	附属図書館収書専門委員会
2022.6.30	つくば市域図書館連携協議会
2022.7.22／12.9	附属図書館ボランティア専門委員会
2022.12.12	電子ジャーナル整備方針検討タスクフォース

8. 研究開発室

プロジェクト名	担当室員／協力者
ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	逸村裕（図書館情報メディア系）、野村港二（生命環境系）、島田康行（人文社会系）／三波千穂美（図書館情報メディア系）、五十嵐沙千子（人文社会系）、田川拓海（人文社会系）、学習支援推進 WG（学術情報部）
情報探索行動の分析	逸村裕（図書館情報メディア系）
附属図書館における貴重資料の保存と公開	山澤学（人文社会系）、谷口孝介（人文社会系）、松井敏也（芸術系）、水野裕史／特別展 WG（学術情報部）
図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴（生命環境系）、逸村裕（図書館情報メディア系）／望月有希子（生命環境系）
利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討	高久雅生（図書館情報メディア系）、宇陀則彦（図書館情報メディア系）、鈴木伸崇（図書館情報メディア系）、熊渕智行（学術情報部）／真中孝行、関戸麻衣、田村香代子、西彩花（学術情報部）
デジタル画像の利用促進	宇陀則彦（図書館情報メディア系）、和氣愛仁（人文社会系）堤智昭（人文社会系）／真中孝行、関戸麻衣、田村香代子、西彩花（学術情報部）

7 メディアにみる附属図書館

1. 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日　付	掲載元	メディア	掲　載　内　容
2022.5.30	筑波大学新聞	新聞	「歴聖大儒像」を特別公開　中央図書館で修復完了記念展
2022.5.31	筑波大学アーカイブズ年報（第 5 号）	雑誌	デジタル時代の公文書管理の近年の動向と「筑波大学附属図書館点字 Blog」の復元
2022.6.20	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館特別公開「狩野山雪の歴聖大儒像」
2022.7.25	筑波大学新聞	新聞	図書館セミナー室　学生の利用再開
2022.8.8	文教速報	雑誌	大学図書館職員長期研修を開催（筑波大）
2022.8.15	文教ニュース	雑誌	筑波大学 ： 令和 4 年度大学図書館職員研修
2022.10.1	Campus（全代会広報誌）	雑誌	サードプレイスとしての図書館
2022.11.4	筑波大学新聞	新聞	特別展「孔子をまつる-歴聖大儒像の世界」（催事欄）
2022.12.23	MILK （知識情報・図書館学類誌）	雑誌	必見！メディアミュージアム
			図書館情報学図書館の児童図書（児童文学あれこれ）

2. 筑波大学附属図書館の刊行物

附属図書館年報 2021 年度
筑波大学附属図書館研究開発室年次報告 2021
Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)
No.125　中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2022
No.126　Tulips Search の使い方
No.127　中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2022.10～
No.128　2022 年度 附属図書館 LA 企画 筑波大生なんでも相談室

3. 筑波大学出版会の刊行物

発行日	タイトル	著　者
2022.6.16	距離分布からみる空間	腰塚武志 著
2022.6.27	もっと知りたい！「科学の芽」の世界 PART8	永田恭介 監修 ／「科学の芽」賞実行委員会 編
2022.11.18	移住労働とディアスポラ政策	明石純一編著 ； 首藤もと子 [ほか] 著

4. 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料

日 付	内 容	資料種別	資料名	資料 ID	掲載書名等
2022.4.18	影印	一般図書	不逞運動ノ真相	10076004592	朝鮮治安関係資料集成　第Ⅰ期【編集復刻版】
2022.5.6	影印	貴重書	狩野山雪「歴聖大儒像」6 幅　他	10177242286 他	水野裕史編『儒教思想と絵画 ： 東アジアの勧戒画』（勉誠出版）
2022.5.6	動画作成・放映	和装古書	聖堂講釋の圖 ； 寺子屋の圖	10088015219	テレビ東京「東京 good」湯島
2022.6.7	動画作成・放映	貴重書	大智度論 巻第七十	10076132004	BS 松竹東急「号外！日本史スクープ砲」
2022.6.22	出版	和装古書	紫の一本 下の巻	10076905603	「特別展　練馬といえば！大根―練馬大根いまむかし―」図録（練馬区立石神井公園ふるさと文化館）
2022.6.29	出版	貴重書	1. 宋揚輝筭法 7 巻 2. 新編筭學啓蒙 3 巻坿總括 1 巻	1. 10076713848 2. 10076713850	上野健爾 [ほか] 編『関孝和全集　全 3 巻』（岩波書店）
2022.8.23	動画作成・放映	貴重書	教皇グレゴリオ 13 世伝　他	10079324032 他	BS 松竹東急「号外！日本史スクープ砲」
2022.9.8	動画作成・放映	貴重書	毛詩抄 2	10076701104	NHK_E テレ「漢字ふむふむ」
2022.10.17	影印	一般図書	1. Anglic : an international language with a survey of English spelling reform 2. The life and growth of language	1. 10076344360 2. 10076415773	平田諭治『岡倉由三郎と近代日本―英語と向き合う地の軌跡―』（風間書房）
2022.10.18	翻刻	和装古書	大學 ； 中庸 ； 論語 10 巻 ； 孟子 7 巻, 2	10076862920	中野直樹「琉球における漢文訓読の実態―琉球版『論語集註』による―」『訓点語と訓点資料』第 149 輯
2023.1.19	影印	和装古書	横濱案内繪圖 ： 時随改正	10076904205	テレビ東京「出没！アド街ック天国」
2023.3.14	影印	貴重書	Oratio habita a Fara D. Martino Iaponio, suo [et] socioru[m] nomine, cum ab Europa redire[n]t, ad patre[m] Alexa[n]dru[m] Valignanu[m] visitatore[m] Societatis Iesu, Goae in D. Pauli Collegio, pridie Non. Iunij, anno Domini 1587	10079323946	波佐見町歴史文化交流館常設展示図録（波佐見町歴史文化交流館）

※全 49 件から抜粋したものです。

8 附属図書館 ボランティアの活動

附属図書館ボランティアは、新型コロナウイルス感染症対策のため、2020 年 3 月 5 日から活動を休止していましたが、2022 年 9 月 2 日から十分な感染対策をとったうえで一部の活動を再開しました。

1. 2022年度ボランティア構成

●男性：6 名　●女性：22 名　計 28 名

〈年代別内訳〉

●60 代：17 名　●70 代：9 名　●80 代：2 名

●更新：28 名

活動休止中のため、新規募集なし

2. 活動統計（2022.9～2023.3）

1　利用環境整備

●シェルフリーディング書架数　3,904 連

●ラベル補修　406 冊

●図書修理冊数　254 冊（中央図書館）

2　体芸図書館ポスター整理　66 枚

3　見学案内　2 件

※総合案内、対面朗読、学外者への見学案内は休止

3. 年間行事

1　附属図書館ボランティア懇談会　11 月

3 年ぶりに対面での懇談会を開催しました。再開後の活動の活動報告や、ボランティアの永年活動表彰を行いました。

2　附属図書館ボランティア講演会　11 月

「モノの使いやすさ」を考える心理学（原田悦子　人間系教授）

超高齢社会と高度情報化社会におけるデザインと使いやすさについて、日常生活で経験したことがあるような具体例を挙げ、講演いただきました。

4. 各種活動

1　利用環境整備

書架整理活動では、図書が請求記号順に並んでいるか、所在不明となっている図書が誤った場所にないかなどを確認しながら、書架の清掃も行っています。利用者が快適に資料を使うことができるよう活動しています。

また、図書修理活動ではページが取れたり、表紙が外れてしまった図書などを修理し、学習や研究に長く使っていただけるよう、活動しています。

2　特殊資料（展覧会ポスター）整理

全国から送られてきた美術館等のポスターの掲示や、ポスターデータの入力を行い、展覧会ポスターデータベースを構築しています。データベースではフリーワードや年代、ジャンルで検索可能となっており、展覧会目録の当館の所蔵データや開催した美術館等のウェブサイトとリンクしています。

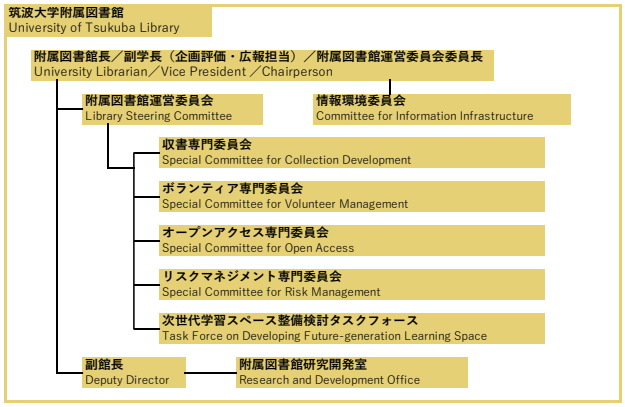
〈展覧会ポスターデータベース〉

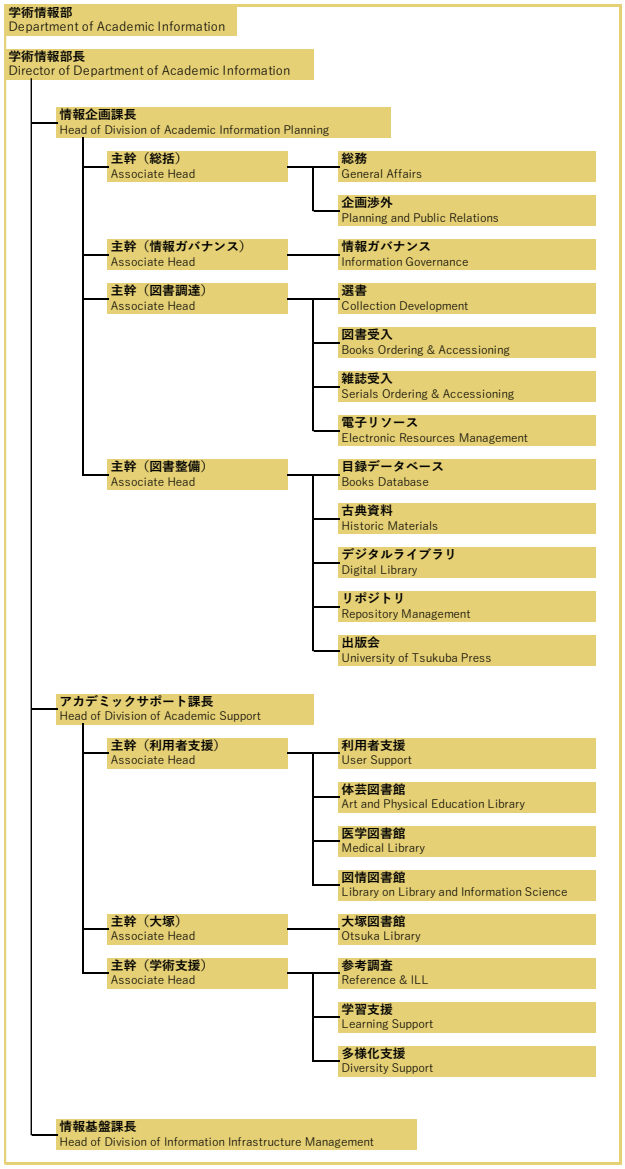
https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/collection/taigei-posterdb

（多様化支援係長　飯田　貴子）

9 組織図・歴代図書館長

1. 組織図





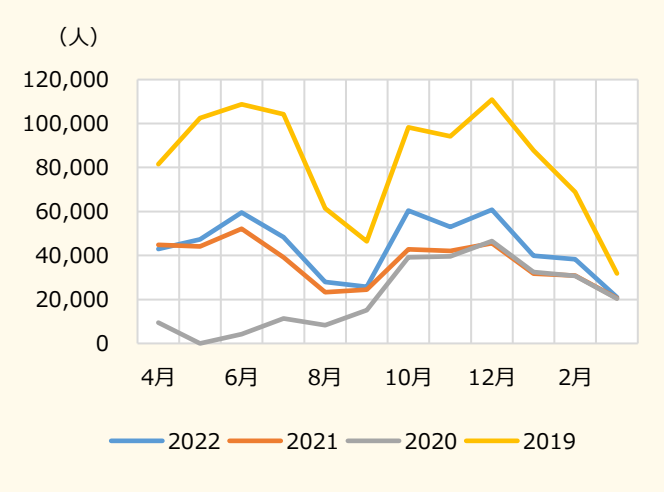
2. 歴代図書館長

	名　前	期　間	備　考
高等師範学校・東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日　～ 明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅 米吉	明治32年9月7日　～ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日　～ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日　～ 昭和7年3月3日	
	諸橋 轍次	昭和7年3月4日　～ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日　～ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日　～ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日　～ 昭和29年7月15日	
	中西　清	昭和29年7月16日　～ 昭和31年3月31日	
	熊沢　龍	昭和31年4月1日　～ 昭和33年3月31日	
	熊沢　龍	昭和33年4月1日　～ 昭和35年4月30日	
	肥後和男	昭和35年5月1日　～ 昭和38年3月31日	
	山崎　宏	昭和38年4月1日　～ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日　～ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日　～ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日　～ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日　～ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日　～ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日　～ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日　～ 昭和53年3月31日	
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日　～ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日　～ 昭和50年4月1日	
	酒井 忠夫	昭和50年4月2日　～ 昭和52年4月1日	
	高橋　進	昭和52年4月2日　～ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日　～ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日　～ 昭和56年4月1日	
	高橋　進	昭和56年4月2日　～ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日　～ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日　～ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日　～ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日　～ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日　～ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日　～ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日　～ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日　～ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日　～ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日　～ 平成15年3月31日	
	林　史典	平成15年4月1日　～ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日　～ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日　～ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日　～ 平成28年3月31日	2期
	西川 博昭	平成28年4月1日　～ 平成30年3月31日	
	阿部　豊	平成30年4月1日　～ 令和3年3月31日	
	池田　潤	令和3年4月1日　～ 令和5年3月31日	

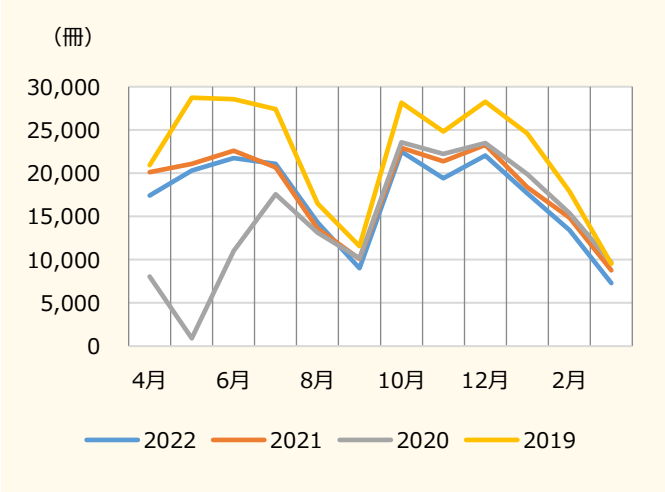
10 統計 2022（令和 4）年度

1. 推移と分析

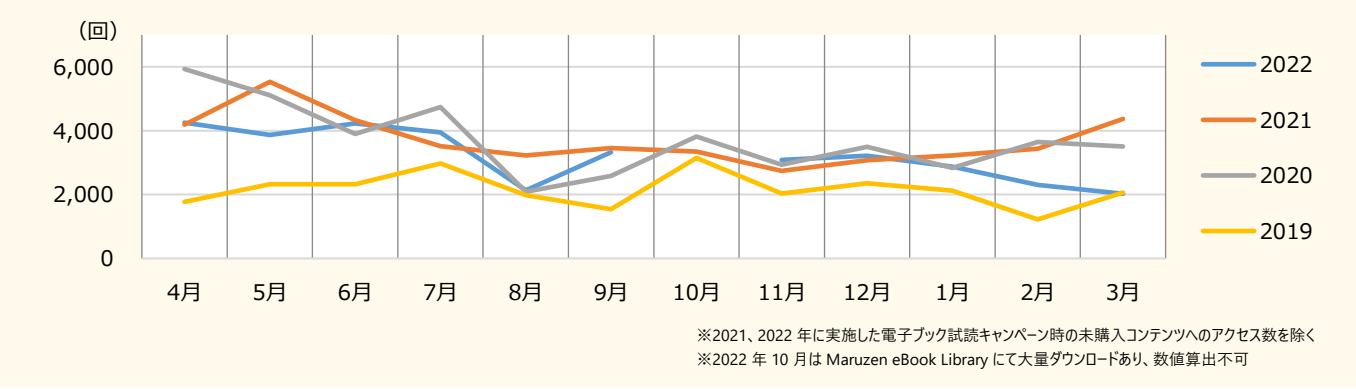
入館者数



貸出冊数



主要電子ブックアクセス数



※2021、2022 年に実施した電子ブック試読キャンペーン時の未購入コンテンツへのアクセス数を除く
※2022 年 10 月は Maruzen eBook Library にて大量ダウンロードあり、数値算出不可

2019 年度から 2022 年度の入館者数・貸出冊数・電子ブックアクセス数を、月ごとのグラフで表しました。

2022 年度の入館者数と貸出冊数を 2021 年度との比較で見ると、入館者数は年間を通して増加、貸出冊数は概ね同水準かやや減で推移しています。特に 10 月から 2 月にかけては、この傾向がよりはっきり出ています。2022 年度の同期間の貸出冊数は 2021 年度と比較して平均 1,000 冊程度の微減となっている一方、入館者数は平均 1 万人以上増加しており、この期間、図書の貸出を目的としない来館者が増加したことが読み取れます。4 ページの記事「新型コロナウイルス感染症対策から利用者サービスの再開へ」でもまとめている通り、2022 年度は、段階的に施設の利用やサービスを再開しました。こうした変化が、貸出目的以外の利用増加に影響を与えたと考えられます。

電子ブックのアクセス数はどうでしょうか。2020 年度はコロナ禍に伴う図書館の臨時休館に加え、感染症対策として不要な入構の制限やオンライン授業の推奨もあったことから入館者数が大きく減少する一方、リモートアクセスが可能な電子ブックの利用が大幅に増加しました。2020 年 6 月に入館が再開された後もアクセス数が 2019 年度の数値を下回ることはなく、この傾向は 2022 年度も持続しています。2021 年度の年間推移と比べると 2022 年度は利用の波も見られますが、コロナ前と比べて電子ブックの利用は相応の定着を見せていると言えるでしょう。電子ジャーナルやデータベースといった他の電子リソースの利用状況とも合わせて、引き続き注視していく必要があります。

2022 年度は、コロナ禍の影響が依然残りつつも、従来の図書館サービスへの復帰が具体的な運用レベルで実現していった年でした。同時に、新型コロナウイルス対策として新たに実施・拡充を行ったサービスを状況に応じて取捨選択しながら、来館利用にとどまらない新たなニーズにも対応しています。コロナ禍に対応する中で変化してきた図書館のサービスが、2023 年度以降の利用者にどのように定着し、統計的数値としてどのように表れてくるのか、引き続き注目していきます。

2. 利用統計

		中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
年間開館日数（日）	平日	237	237	237	237	238	—
	土・日・祝日	110	79	110	80	100	—
	合計	347	316	347	317	338	—
入館者数（人）	平日	254,144	55,613	93,975	23,443	10,598	437,773
	（学外者　内数）	4,036	411	368	319	1,744	6,878
	土・日・祝日	49,062	7,472	18,884	3,683	8,104	87,205
	（学外者　内数）	1,459	92	211	101	1,179	3,042
	合計	303,206	63,085	112,859	27,126	18,702	524,978
	（学外者　内数）	5,495	503	579	420	2,923	9,920
平均入館者数（人）	平日	1,072	235	397	99	45	—
	（学外者　内数）	17	2	2	1	7	—
	土・日・祝日	446	95	172	46	81	—
	（学外者　内数）	13	1	2	1	12	—
	1日当たり	874	200	325	86	55	—
	（学外者　内数）	16	2	2	1	9	—
貸出冊数（冊）	学群生	67,818	15,080	7,789	6,560	257	97,504
	院生	53,805	9,237	2,909	3,187	7,098	76,236
	教員	22,671	3,270	4,564	3,133	3,510	37,148
	学外者	2,999	271	226	411	471	4,378
	その他	88	0	0	0	0	88
	合計	147,381	27,858	15,488	13,291	11,336	215,354
貸出利用者数（人）	学群生	28,687	6,422	4,050	3,098	121	42,378
	院生	19,152	3,617	1,208	1,291	2,576	27,844
	教員	5,822	779	1,681	950	928	10,160
	学外者	1,061	110	75	175	194	1,615
	その他	10	0	0	0	0	10
	合計	54,732	10,928	7,014	5,514	3,819	82,007
文献複写（コピー）（件）	学外依頼	2,598	495	1,341	119	680	5,233
	学外提供	1,218	117	313	90	114	1,852
	合計	3,816	612	1,654	209	794	7,085
相互貸借（図書）（件）	学外借受	1,054	86	42	55	167	1,404
	学外貸出	1,846	293	78	148	127	2,492
	合計	2,900	379	120	203	294	3,896
レファレンス件数（件）	学生	5,158	1,095	608	253	1,584	8,698
	教員	3,504	717	2,171	229	596	7,217
	その他	687	42	49	21	445	1,244
	合計	9,349	1,854	2,828	503	2,625	17,159
	資料に関するもの	5,941	1,088	2,360	267	1,418	11,074
	利用案内・指導	3,382	766	466	234	1,207	6,055
	事実に関するもの	26	0	2	2	0	30
	合計	9,349	1,854	2,828	503	2,625	17,159

webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	298,383
学外	1,231,408
合計	1,529,791

つくばリポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	1,938,140
本文ダウンロード数	2,552,167

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	11,323
JSTOR	51,412
Nature	183,839
Oxford Journals	62,719
ProQuest Central	24,740
Science	34,903
ScienceDirect	786,979
SpringerLink	247,976
Wiley Online Library	265,564

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	3,953
CAS SciFinder^{n}	84,230
InCites-Journal and Highly Cited Data	12,527
Lexis	6,931
ProQuest Central	9,553
Web of Science	194,293
医中誌Web	60,428

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	776
KinoDen*	1,259
ProQuest Ebook Central	4,397
Maruzen eBook Library*	22,895
EBSCO eBooks	1,266
Springer eBooks	19,270
Wiley Online Library	1,725

*タイトルアクセス数（その他はフルテキストアクセス数）

3. 基盤統計

施設環境

(2022年度末現在)

	中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
建物面積 （㎡）	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数 （席）	1,142	369	354	254	132	2,251
利用者用PC台数 （台）	154	62	74	42	24	356

図　書

(冊)

			中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
年度受入冊数	(和洋区分)	和書	8,252	1,887	989	1,640	854	13,622
		洋書	2,136	244	62	583	146	3,171
		合計	10,388	2,131	1,051	2,223	1,000	16,793
	(受入区分)	購入	5,008	989	910	758	622	8,287
		寄贈	4,916	1,035	113	1,371	287	7,722
		製本	446	107	26	91	87	757
		その他	18	0	2	3	4	27
		合計	10,388	2,131	1,051	2,223	1,000	16,793
蔵書冊数	(和洋区分)	和書	1,145,654	205,329	97,375	189,873	57,248	1,695,479
		洋書	795,190	68,603	80,873	75,744	27,149	1,047,559
		合計	1,940,844	273,932	178,248	265,617	84,397	2,743,038

雑誌（冊子）

内訳	年度受入タイトル数			所蔵タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	673	3,308	3,981	17,916
洋雑誌	269	246	515	13,004
合計	942	3,554	4,496	30,920

つくばリポジトリ 累積登録件数

（2022 年度末現在）

内訳	件 数
学術雑誌掲載論文	13,070
学位論文全文	6,362
学位論文内容・審査の要旨	11,611
修士論文	544
紀要論文	23,187
研究報告書	4,609
会議発表資料	472
講義資料	194
研究業績目録	23
貴重書コレクション	408
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	65
その他（図書）	937
合計	61,577

電子ジャーナル 契約タイトル数

（有料契約誌のみ）

内訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	406
JSTOR	966
Nature	29
Oxford Journals	243
ProQuest Central	27,000
Science	1
ScienceDirect	2,292
SpringerLink	2,265
Wiley Online Library	1,342
その他	4,997
合計	39,541

提供データベース・検索ツール

● 主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CAS SciFinder^{n}
CINAHL
D1-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis
ProQuest Central
Web of Science
Westlaw Japan
朝日新聞クロスサーチ
医中誌Web
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

電子ブック 契約タイトル 累積数

（2022年度末現在）

内訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	-	1,686
Kinoden	158	-
ProQuest Ebook Central	-	938
Maruzen eBook Library	2,913	521
EBSCO eBooks	492	1,076
Springer	-	29,546
Wiley Online Library	-	1,149
その他	23	3,777
合計	3,586	38,693

Tulips
University of Tsukuba Library

筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
voice@tulips.tsukuba.ac.jp
https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/

22
令和5(2023)年6月30日発行